松永湾岸の歴史



備陽虫探訪の会

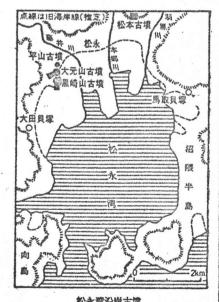


◎ 海上を見はるかす前方後円墳

福山市史等の伝えるところに切れば、尾道市高須町、現在高 須浄水場となっている辺りに、かつて二基の丈規模な前方後円墳 が存在したという。黒崎山古墳と大元山古墳である。

黑崎山古墳は墳丘全長75M、大元山は50Mで正式な調査を 経ることなく破壊されたため正確なことは言えないか、若ちの出 土遺物と石室構造及が円間埴輪の存在から与世紀代のものと 考えろれている。古墳時代中期この松永湾岸にこの二つの古墳が 存在したということか、どれ程奇異に属することか考えてもらいたい。 何1をは"広島県で"最大とされる古墳は東広島市の三っ城古墳である がこれでも全長82m、備後に限っているは、古代政治の中心地と 目される神辺平野でさえ5世紀代としては掛迫前方後円墳46.5 州か、最大である。古墳の大いさか、それを築いた集団の権力と富の。 大いさも象徴するもので、あるとするなら、この松永湾に屹立する二基 の前方後円墳を築いた集団はどの様な力を持っていたのである うか

松永湾岸は現在でも平野の少ない ところであるか、古墳時代には海岸線 は今よりもさちに奥深く入りこんでいたは ずである。ということは黒崎山・大元山の 両古墳(あるいは松本古墳もこれに加え て良いがとも思うか)は少くとも農業生産 をバックとした首長墓で"はないということ になる。そのことも裏付ける様に松永湾 岸ではこれに先行する 弥生後期の遺跡、 の実体もまた。余り明確にされてはいない し、目立つ程の後期古墳も存在しないの



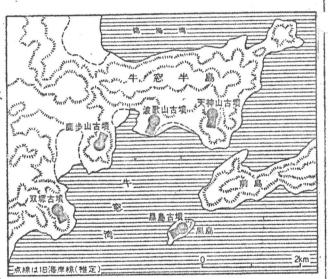
松永湾沿岸古墳

である。

ところで瀬戸内沿岸にはこの松永湾の古墳時代と性格を同じてする性格不明の首長墓といったものかる所に卓在する。それは備前午窓を始めとして国防・讃岐・伊予と瀬戸内全域に抗からているがそれるに共通の特色としての海岸線にあり、海上への寛欲が感じる此ること、② 背後にさほど、大きな(古墳の規模にみあうだけの) 農業は産力を持っていないこと ③ 共に4世紀末から5世紀にかけてのものであり6世紀にかかるものはわずかであること等があげられる。

この内特に興味もかくのは最近ハッションの乱立著しいと聞く岡山県牛窓町であり、ここでは牛窓湾をとりかこな様にしてち基の前方後円墳(5~6世紀、50m~90m級まで)かな在する。

さて生窓にはこれろ首長 墓の性格を暗示する様なか とつの伝説が、伝っている。 これを中見伝説のと呼ぶ。



締前上忽勝の士雄

四年鬼伝説

新羅征伐に行く仲哀天皇と神功皇后か、中で、中宮にさしかかると雷鳴とともに黒雲にのった塵輪鬼(チンリンキー頭が八つある大牛の怪物)が、表れ襲いかか、た。天皇が弓で、財落とすと首と胴がこつにた。て海に落ち、胴は前島、首は黄島となった。しかし一つの頭が生き残っていて天皇に向って毒失を射た。仲哀天皇は牛宮で、なくなり、陵は播磨口明石にある。

さちに後日、神却皇后が新羅から凱旋の金中、中窓沖で今度は塵輪鬼の魂魄か中鬼となって海中から現れ、船をひっくり返えらとしたが住吉明神が老人の姿で、現れ中鬼の角をつかんで、投げ倒した。このは易所を中転(ウシマロビ)といい、記して中窓となった。

以上が中窓の『牛鬼伝説』である。「神功皇后の新羅伝説」とつるんで出てくるところか、いかにもコートームケイといったところだっか、この伝説は少くとも次のことは教えてくれるはずである。すなわちの牛窓には「牛鬼」という怪物がおりしばしば海上を通過するものに免害を10元を。牛鬼を海賊の如き制海権を握ったものと言い神えるなる、やや現実の味をおかばうか。②この勢かは畿内勢かにとうる実力と自立性を持っていた時期もある。そして③としてこの伝説が「神功伝説」とつるんで、現れてくる意味は畿内勢かにとってこの牛窓の牛鬼を屈服させることが、彼らの対外政策にとって極めて大きな意味を持ったである。ということである。

回 茅人葉 団

日本の海人集団には大きく分けて二つの系統かあると言かれる。
ひとつは安量(アスミ)系海人族であり、これはインドシナの家船漁瑞民の流れである。彼らは中口大陸を海岸をいた北上し朝鮮西岸を通って北九州に渡来、定着した。漁栉民であると同時に航海者としての性格も有している。いまかとつは宗像(ムナカタ)系海人族であり、これはイントドネシア系の潜水漁栉を主とするものである。フィリセツー台湾一琉球一奄美一南九州(ここで偉人族を形成する)一北九州のコースをとる。

安量族は5世紀に起った海人社会の内特を契機として畿内勢力と結びつきを深め、全海人族を統括する地位を確得した。安量連(アス"ミ)4ラジンといえば"7世紀日村江で日本の水軍が漕の水軍に破りるまで"一貫に1日本の水軍の長であった。ここでは彼らの・航海技術が"彼らか"のし上がるための大きな要因で"あったことは、同違いない。北九州と畿内にルートをつけた彼ら安量族は当然な

から類戸内沿岸に勢力をはることになる。なお断っておきたいが安量が、建姓をもちって大和朝廷の支配機構の内に組み込まれたとはいっても、それは日本が日家の存在をなすもっと後の段階の話で、あってこの与世紀、段階では西省の関係はまだ。また、流動的で、あったと思うのである。

一方の宗像系は政治志向といったものをほとんと"持っていないのではないかと思われる位中央には出てこない。一般に潜水漁撈というのはそういった性格のものかとも思う。彼らは主に日本海を北上し、北陸辺まで分布している。それでは次にこの安量が「航海技術を軸にして政治世界に登場してくる5世紀とはどういった時代ないか、何故に彼らは時代に必要とされたのか、ということを探ってみたい。

5世紀は 11的ける〈倭の五王〉の時代である。この〈王〉たちは河内に本物は置き100年の屆に10数回も中口に使者を送るなど、4世紀とはう、2かか、7文が動ち竟然の強さを示している。これらの使者派遣は中口史書の伝えるところによれば、〈安東大将軍〉〈中口を頂臭とした東アジッアの支配体制の中で、朝鮮をも含めた地域の支配を認められた将軍の竟〉の称号を得るためであった。もっとも中口の冊封体制がどの程度対力を持ったかは疑問で、朝鮮に対する倭勢中の支配の事実というものも眉に唾して固かねば、存らぬか、少くとも対外的なた同を強く持ち、また口内的には畿内勢力をして日本ので一の支配者たろしめんとしたこの王権にと、て海人集団を掌握することはぜひとも必要なことなのであった。前に記した様な中窓や松水の前が後中墳はこうした5世紀の時代状況の中で、彼らが大きな力を持つようになったことの証して、ある。

でしてそうであるとするなら前にも述べた様にも世紀に至ってこれ ちら世紀に大規模な沿岸首長墓を築き得た集団が、にもかから らず、それに後続する目立った後期古墳を残していない(カが、急 連に衰えた)理由もおよそ察しか、つくであるう。瀬戸四海ルートは 畿内勢力にとって生命線であった。か、そうである故にその支配を個 なのもの方首長にまかせておくことは出来ぬので、ある。〈牛鬼伝説〉 か、示唆するように彼らか、余り強大化することは畿内勢かの存立をもたうくするで、あるうことは見易い道理で、あったからで、ある。『日本書紀』は5世紀末、吉備の反乱とその後の衰退を行えているか、この時期と前後して海人集団というものはた。人た、人に畿内勢かの体制下に経過み込まれてしまったと考えられる。

図古代の製塩塩のくりはなよを次の様な流れて現代にまて、至っている。

	製造法	徳許	煎熬	
1	天日製塩	なし	なし	
2	蒿水 "	売し	土器	
3	藻塩烷製塩 (土岩製塩)	藻	士号	•
4	揭浜式塩田製塩	Tory.	全生签	
5	アルガー に来て	石少	食金	
6	流下す"	竹(印加)	良くいかちない。	-(4m)
7	イオン交換法	化学反応	//	•
Total Control of				

岩塩のとれない日本では塩は海水を煮つめることでそれを得てきた。この煮つめる作業を「煎熬(かかり)という。ただ海水を煮つめるだけでは燃料の度低から非常に効率が悪いので、その前段階として、海水の塩分濃度を高める作業を必要とする。これが「採醐、けんかと)である。塩つくりはどの様に近代的に見えようとも基本的にこの二つの作業の組み合いせて、ある。

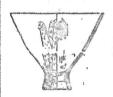
さてこの章で、扱う古代の製塩とは(3の藻塩焼製塩である。〈藻塩、焼く〉という語は万葉集など、に出てくる言葉である。

一淡路島松帆の浦に朝風に玉藻川リフフタ風に藻塩焼きつっ海少女ありとは南けと"見に行かむ縁の無ければ" この〈玉藻川3〉〈藻塩焼く〉というのか"製塩のどの行程に関るのか" 従来から注目されてきたか"これか"藻を使って海水の濃度を高める 〈採載〉を寛味するもので、あることが、段々といかってきた。

- のホンダワラ系統の藻を集めて来て天日で乾燥させる。
- ② 乾燥させた薬さス/コの上にの世上から海水をかける。ス/コの下には粘土で、かためた穴が振ってあるので、濃縮された海水が下にたまる。この行程のくりかえして、鹹水を得る。
- ③この観水を工場に入れ、炉の中に並べて火をたき煮つめる。水分かある程度蒸発したなる海水を足していくので実験ではままる 20~30時間この煎敷作業は続くという。

△ 師達式 辻器 ▷

備護瀬戸の海岸線では弥生時代一古墳時代の包含層からしばしば大量の土場片が層をなして発見されることがあったがこの土器が何に使用されたものであったかは長い自謎であった。この土器の特徴はその量が努いこと(数十の一人の強積層として発見される)ほとんど一般片の形でした表れないこと、そして表面に二次的なかの熱のあとが一説。められることであった。語画地中窓町町集の名をとって一部業式土場と命名された。これが製塩のための土器であると確実にわかったのはつい最近のことである。











く智能は主義)

図 松永湾の古代製塩

土器を使った製塩は備護瀬戸では弥生時代中期後半に始まるか、この松永湾では 古墳時代に入ってかるのものか、99い。そしてされ らは別く縄文時代の貝塚との複合遺跡となっ こいる。何には、大田貝塚や柳潭町馬取貝塚 下垣貝塚等かそれて、ある。特に顕著な遺跡と しては現在尾道造船構内となっている山波崎・ そして57年かる発掘調査の行なわれている瀬崎



町学过去是出土地(福山市里)

町満越遺跡があけられる。『満越遺跡調査概要』はこのこつの遺跡の投資として共に松永湾に潮が出入する流路スロでこのことが、製塩に適していたという意味あいの事を述べているが、元来土器製塩は海水と藻、煮沸させる燃料とわずかの平地できあればどこでも出来るのであるからこの説明は理解出きない。むしる水道を扼する位置を押さえるがかつて海上に覇をとなるた海人集団の末裔たるものの置いなのではあるまいかと考えちゃったりするのた。

◎製塩遺跡と後期古墳

1 × 2 × 2

(海崎遺跡分布図)

▲浦崎▶

和最高可 I (超量起票) X

和贵姑菜 5

和戲菜、串 医

・(古墳) イ 戸崎古墳(横穴ざ)

口 塚尻古墳(")

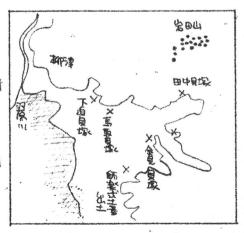
八青木古墳(箱式石棺)

かつては属であったとされ平地もわずかしかないことからこれるの古墳の被葬者は塩っくりをバックにしていたと考えて同選いない。福山市史に「現尼古墳、径10m高25mの円墳、内部主体は実行6.23m、巾1、48m高さ1.5mの片油式横心式石室」とある。も、乙被葬者の実力を関してれたい。

横江▶

柳津養江周辺には縄立かる古墳時代にかけての見まなか、99い。もって当時の海岸線も想像できょうなものである。一見にていかる様にこの地の製塩集団の古墳は岩田山に集中している。

六ヶ塚古墳群、四ヶ塚古墳群、岩田古墳群(元禄塚で含む)が有名。

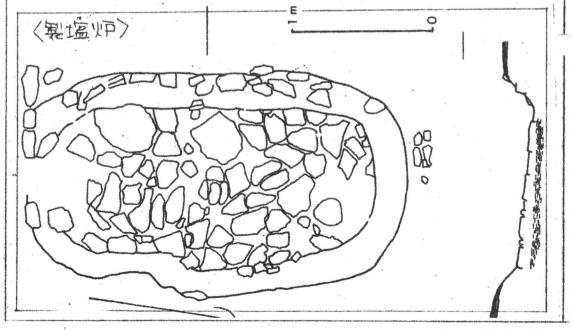


連続の古墳は生産臭の近辺にあるか、ここ藁江は生産でも大分離れて、地域にあり、しかも「墓域」という観念からは、きりと素れているとこるに特色がある。同じ製塩集団の墓で、これ程明確な差があるのは時期を異にするからか、それとも信仰等を異にするのか興味あるところである。 ちおこの岩田山には古代の信仰対象のひとつ磐座であるとおもれる立石(天津磐境と呼ばれている)があり、立地等から、これる古墳群を法、た集団と深い関りかあると見られている。

▲山波崎▶

山波崎遺跡はその背後の丘陵上に広塚1号・2号墳を持つか、この1号墳からは金環、須恵器と共に1個の党形に近い製塩土器が出土し注目されている。

② 以上だうたのも代も粗」でときってみた 5世紀にはこの辺に不必合いな前方 後円墳を築ける実力を持った海人集団も日本の日原統合の過程で、その水 軍力のみは日家とかすめとうい、後は塩のスペシャツスドと ちる他なかったであるうことをこのせの遺跡は表れしている。いつの時代もそうだが、スペシャリストというものは食うには困るぬくらいの実力は持ってはいてもく麺でくの道からは気かすに疎外されているものなのだ。



古代の祭祀遺跡ー磐座を中心に一大新義人

・古代人は〈石〉を神島の恐依する霊体、又神園を招くものと考え、これを崇拝した。そのために人工的に石を立てたり、一定の区園を石で囲んだりにとこを神の降配する場でして祭りを行った。また山中にある奇岩・珍石の自然石を神の宿るものと考え崇拝の対象としたこともある。磐座(イワクラ)というのはこの様に色しな形態をもつ原始も代からの祭祀遺跡でしての町石遺構の古墳時代における一形式である。それ放、まず、各時代の祭祀遺跡を追うことによって磐座のもつ特徴を決きまずりにしてみたいと考える。

① 建文時代

縄文人の思考の内ではく環を作るフということが、特別の意味を持ったのではないた。ろうか、そのことが、環状列面 を始めとする各種の配石施設の基本的な性 格を連絡いていると思われる。

前期一・柱状自然るにお立る・罪状る監 箱形積石・大環状配石の契生。

中旬一 食石の規模も、石材も大型化する 静岡県富士市干居豊跡、か有名。

後期一 和田県上白岩、大湯遺跡、か石名。

週支時代の配石豊穣は東日本に別い。(これはあたりまるで、週支遺跡、というものかとも、そ、東日本に圧倒的に別いからだ。)時期的には中期から後期にかいてか、とっつになっている。特徴的なことは、住民・豊地・祭場の区分がある程度見られるものの、また、余り明確化していないことで、ある。

回 弥性府代

集落付近の祭場の国定化が進んだ。それと来に、大小粉製の石塊。使用の配石遺構から、古墳時代の磐座に相通ずる巨石中心の配石遺構へのラづりかかりの等が、見られる。これは農耕中心の生産深式となったため、集落の国定化・安定化が、増したためと見られる。住居地と墓地、祭場を明確に区分するための境界線、一帯状態石もみられ

る。またこの時期には外影な祭祀用品が発達するか、農耕社会の発 生のため祭祀をのものに新たな芭養が増かりしたためとも考えられる。

旬古墙時代

この時代に特徴的なのは山岳信仰である。この場合富土山の続 な大獄や、火をふく火山、河川の源流となる山々等か、特別のイミをもって 信仰されたのはもちろしだが、平野の集落に接して存在するごと平凡な 小山で独立丘もまた信仰の対象となった。これを神奈衛(神隠の寛か との呼ぶ、古代人にとって山はいろいろな恵みを与えているものであると同時 にまた恐れの対象でもあった。こうした自然覚拝かる山岳、丘陵を神 の降臨むところと考えるようになったのであろう。単に天上に一番近いと いうことだけではないのだ。

古代人は天土の神様が地上に降 りてくる時には舟にのってくると考えていた ようである。だから現在でも山のていん に「何石」とか「何っちまる」とかがある のた。その陰りてくる時の目印しが下木 であ,たり巨岩であったりする。これを 少し えろそろに言うと神能(ヒモロギ)と か磐座とか言うのである。つまり磐径 とは于上が神か、地上に降りてそこに 〈座は髪〉の意、である。 さゆからとりてくる のは新い年の農耕のためで、おるから



(舌田宮の画にをまねてみました

この磐陰を中心とした祭祀は農耕儀礼であると考えるめる。古代人の 信仰も野々と形をととのえてきたことからかるだっるう。

ところで、西日本には海辺や息などにある製産も99い。尾蓋干先きの玉 の岩、松永高諸神社の智座などである。これるの事何かる漁児にも 製座信仰があったと最近では考えられている。この場合神は海の被 方からくるという、海の神信仰」とは見る一種の神奈衛とみたてた「山の 神信仰とも考えられる。海辺の山や目立つ巨岩は航海者にとっても 室際の必要上からも変要であったのだ。

の 歴 原 時代

奈良時代に入って仏教か伝来し、寺院が作られる頃になると神道の方でも対抗して(という表現は良るしくないと思うか)神社というものか作られるようになった。それ以前は神というものは人間が祭祀を行った時のみ天上から降りてくるというものであった。一次では、仏教の伝来によって明らかに古代人の信仰を変ってきたことからかるだるう。古代の斎場である磐道(イワサカー岩でもって、圏を囲み神聖な領域を作りだしたもの。臨時的。)は神社となり、磐座等は(仏教の仏像に対応移動へ)他神体として祀られることになった。

- ◎この近辺の有名な磐座
- の阿知神社 (岡山県倉敷市鶴形山) 「上古の程境」と呼ばれる岩蘚かある
- ・ 植築神社(" 、 矢部) 弥生墳丘墓とに有名な植築遺跡の丘上頂部にある。中央にある 立石を囲むように等距離に4つの巨石が並んでおり、人工であることは「同意いないとされている。また、製造と呼びたいしるもの。
- 。 千光寺

「玉の岩」「八畳岩」は磐座と考えるれる。海に面した山にあることが野ろしく、磐座の概念に修正をせまるかもしれない。

- 。 盾石 (広島県府・布三郎丸町) 大岩の前に飼戈が理納されていたものが、発見されている。 弥生 時代の祭祀遺跡か?
- 天津磐境(福山市金江町) 高さ3.4m 中3.3mの巨岩の下を一直線 に割りその下に2個の舟状の石をかましたもの。 前面に今はないか、舟形石かあったと行える れ下方には平岩もある。これらを含めた空間、 を磐境と呼びたり。
- △ 参考文献 『磐座紀行』 藤本浩一 「備南の珍石」 七森義人(山城志)



一中世の松永一田口義之

図松永の在園

中世は庄園の時代である。庄園とは中央権内の私的な領地で、平安時代末から全口各地に設けられ、中世を通じて地域の基本的な呼称となる。

この松永附近にあったとされる庄園には、新庄、福田庄、菱江庄などがある。この内もっとも早く 史料に現かれるのは 藁江庄(福山市金江町附近)で、承安元年(1171)の官宣旨に見え、京都の石清水八幡宮寺の宝塔院領となっている。他の庄園については その庄園領主の名は明らかにしるないか"ハブルも平安末から 鎌倉初期に在地豪族がその私領を中央権内に寄進して庄園化したものであるう。

◎ 大庭氏のス部

鎌倉幕府は守護、地頭を名地に配して全口を支配したか、松水地方では建保元年(1213)大庭三郎景重が新庄の地頭に任命され入部している。

大庭氏は坂東平氏の名川で"相模ロ大庭御厨を本貫地とした 有力な関東武士である。

同氏はこの地にス部するにあたって新庄の中心本郷(福山市・本郷町)に大場山城を築き居城とした。その後十二代平右エロー景秀の代天文九年まで、この地に居城したという(芸備日土記)。

たか新在とは本在に対することはで、この場合の本在は、新在の北かる西方に在かる福田在のことであるう。

図 杉原氏の高須社ス部

福田庄は福山市芦田町かる尾道市高須町にかけての広大な面積をちめる庄園であったが、この内尾道市高須町附近は「福田庄」と内高須社」と言われるように、独立的な傾向を持ち、鎌倉時代には幕府御家人の山鹿氏が、代々土也頭職を有していた。

南北朝内乱に際して、足利尊氏方として活躍した杉原信平は観応二年(1351)二月、尊氏より、勲功の賞として「福田庄、高須」の

地頭戦を与えられる。をして信平の子孫の内の一流は高領に本地頭戦を構え「高領・杉原氏」として松永西部にも勢力を振うようになる。

図古志氏のス部

戦同時代この地方で"最も有力だ"。たのは古志氏で"ある。
古志氏は佐々木氏の一族で"出雲口を本物とする武士で"あるか"
同氏か"この地方に勢力をはるようになった発端は明らかで"ない。
一説には流永八年(1401)備後主護代として刁部したと言われているか"、ともかく戦口初期には新庄大場山は成の大庭氏を追いこの地にしっかりと根を下した武士として近在に威を振った。

図 渋川氏と藁江庄

藁江庄は、室町時代にも石清水八幡宮領としてな続しているか、在地は請負代官に任せていたようで、その支配も切から有名無 室化し、長享元年(1487)頃にはその年貢は全く送られていない。

この庄園で、特筆すべきことの一つには塩年貢の存在があげられる。文中三年(1446)正月の藁江荘社家分塩浜幅に、「ナタ浜世春桶 道性カイハラ 云々」とあって沿岸部庄園としての特色を示している。

戦口時代、この在園を支配したのは淡川氏である。

渋川氏は足利氏の一門で、代々九州探題を世襲した名内で、同氏が所領は近隣の沼陽半島にもあった。

渋川氏が何故このため、勢力をもつようになったのかは不明だが、九川を没落した渋川義陸は永正年間のから500 備後日都調郡八幡定に本拠を置き、名川として備南地かで、権勢も振り、勢力の確立に狂奔している。 おきろく山南 (沼陽半島の中央)の領主としてこの地方の政治に介えし、何等かの言いかかりをつけて当地を押領したものであるう。

しかし渋川氏は義陸の奔走にもかからす、在地に勢り圏を確立るのには失敗し、早くも天文年間には藁江城(赤柴城か)を小阜川隆景に預け、その保護下に入って名川としての虚名を有するのみとなっている。

図毛利氏の征覇

戦口期の松永地方は山陰かる南下する尼子氏と防長の大内氏、安芸の毛利氏との抗争の場であったといえる。

特に古志氏は尼る氏との関係が深く、この地方の尼子方の質質として、複々を利氏等の攻撃を受けている。

しかし高領杉原氏などは早くより毛利氏と通じ、古志氏も天文年間のかりなりには毛利方となる。又長川氏も義陸の多義正はその妻に毛利元就の娘を迎え、この地方の有力な毛利力として活躍する。こうして戦口時代後期には松永地方は毛利氏の領口として比較的平陽、な時代を過ごし、やかて近世の南幕を迎えるのである。

* *

●皇蔵访皇描▶

金江町全見、八幡様と同一の丘陵上に境を接して皇蔵かはある。我にか下見に行った時は雨か路。これだけもあって非常に落ついた思園気。本堂の階壇の西側には古ずの宝篋印塔か二基並している。もの本によれば、永和四年の記を銘が読みとれるとうです。永和四年といえば、南北朝時代の北朝の母子、西暦ではは378年にあたり、先の田口氏の文章によれば、またこの辺りか藁江庄と呼ばれていた頃であるしかし東蔵がに関する文献資料はほとんと、たく、この手かいつの時代創建にかかるものかさえば、きりしない。あるいはは等側には資料があったかもしれないが明治六年大川で全様にているため、知る年にてもない。

空性の来話にもかからす。我々は座動にまで上げてもらって非常ななで待を受けた。本堂脇の建物(専門用語が思い浸ばない)が改修中のため我々が上げてもらった座敷には仏像や軸物がたくさん遊覧していた。好きなだけ見て下さいと言われたのだが、生層をはどの方面に少しも知識がない人であるので、全く猫に豊田商事、ただ「ハバラー」とか「ホォー」とかまるで、意味のない風嘆詞を並べるしか能がなかったのであった。(東)

近世の松が

(1) 水野家の新田開発

元和5年(1619)福島正則の改易により、備後6郡及び備中小田郡後月郡の1部に郡山6万石から備後10万石の大名として水野勝成か入封する。当時全国的に年貢米の増大の為耕地の拡大、すなわち新田開発が行なわれた。水野氏5代(元和5年~元禄11年) 約80年は最も開発が進んだ時代であり現在の福山の地形がほぼ造成されている。勝成入封より2代勝後死没の間は神谷治部、小場兵左衞門が奉行し野上新涯、三吉新田、市村沖新田名の他の開発を行った。

勝俊が正保4年(1647)発病、小場兵左衛門が死去、神谷治部老令により隠居となり干拓事業の中心的存在を失うと城代家老上田玄蕃は妹婿である本庄重政を藩に招き事業の推進者とした。(承応3年1659)本庄重政は延宝4年(1676)7/オで死去する間約20年間松永塩田の

造成を主に功績を上げた。

(2) 本庄重政 と松永塩田

・兵法家としての重政 重政は福山藩普請奉行本庄重紹(500石)の長男であったが家督を弟 にゆずり家も出て江戸に学び軍学の修業に専念した。島原の乱に馳 せ参じ得意の砲術で敵を苦しめた。買永15年(1638) 原城総攻撃の時 1番乗りをてげ首級30を挙げ名声を上げ、 復禄1000石以下では奉 公せぬ」と豪語したが寛永16年(1639) 岡山藩主池田光政から後には 1000石 やるから 当分はこれで我慢せよ」と300石20人扶持をもらって 奉公することになった。 世は天下秦平の 時代となり兵法家の出番 はなくなると功名家重政は意を決して「たとえ1000石いただくより も一いま(砕析の) 工夫の道を弘めた方がよい」という置き手紙を残 して無断で赤穂城下へ立。た。- 承応元年(1652) - 赤穂浅野泉は 軍学を敬慕する家風であり、藩主長道や家老大石頼母低之助の叔父 は重政に使者をおこして度々教えを請うている。兵法家重政の名声 が大きかったことがうかがえる. ところが池田光政は 本庄重政 は当藩の武士であるが、当分仕官の望みはなく。工夫の道を弘めたい とのことであるから貴藩においても召し抱えることのないようにし てもるいたい」という"構え状"-福山市指定文書承天寺蔵でを全国 の大名に送った為重政は浪々の身となってしまった。松永塩田も 重政が開発することになったことは、①赤穂に招れた ②池田光政 の構え状 の2つの要因と重政の功績心、すなわち兵法家から土木 技術者、へ 転身することで塩田開発により名声を上げようとした と評される彼の人がらによるところが大きい

・重政と新田関発

その頃松永灣は深く湾入し俗に袋海と言われていた。湾に注ぐ川により土砂に埋れない砂川や遠于潟ができ、2代勝俊はここを遊練場として一般の漁猟を禁じたので百姓たちの迷惑ははなはだしかた3代勝貞は明暦元年(1655)31才で藩主となったが、藩政の実権は、城代家老上田玄蕃にあり彼は専制的支配をなした為寛文2年(1662)の水野家騒動を起し、重政後の本庄氏の追放の因にもなった。

玄蕃は2代以来の干柘造成工事に力点を置き、(私の住む川口町東き彼のチによると伝え、功績を讃える石碑があります) 本庄重政を福山によび戻し6才になる息子重向を500石で抱えることにし、重政は高須村(現産道市)に隠棲させひそかに福山まで往復させて子弟の教

育に当らせた。表面上沈田家をはばかってのことである。

重政は遠浅の松永湾内の多数の中州を利用し潮止于拓をし美田をなすことを藩に上甲した。そして明暦2年(1656)柳津新田、万治元年(1658)高須大新田、寛文2年(1662)東西15町南北10町か造成され、塩浜48浜78町7段1畝18歩か出来上。た。 その後

・松永」の起因

寛文7年(1667)新田や塩田かほぼ完成すると各地から取を求めて人々が集り住み、誰言うとなく本圧村。と言いはじめた。重政は自分の名を付けることは藩主に惮りがあるとして松の木か永く茂り栄えるように、と松永」と命名し幕府の計可を得た。この時庄屋、宿港庄園の大会を選集、本郷島、高須屋、浦崎屋、山南屋、本郷島、などがありまた、本郷島、今津島、神島、相生島、徳島、長和島、などの地名が残っているのは、各地から新開池に移住して来た人達がつけた名称と思われる。 塩田開発は重政以後も庄屋、豪商により明治初期まで続いた。

・重政と塩田

重政は明暦2年(1656)の柳津新田に始る数多くの新涯を造成るしているがは代格派というれるとのでは、文化財子のでは、大下に移動を造べると、文化財子のでは、大下に移動を造べるが、大下に移動を造べるが、大下に移動を造べるが、大下に移動を造べるが、大下に移動を造べるが、大下に移動を造べるが、大下に移動を造べるが、大口のでは、大力のないないが、大力のでは、大力のないのでは、大力のでは、

(17)

(4代勝種)に塩戸税銀100枚を献上できる程経済効果が上った。藩主は重政の功を賞して銀50回枚を賜はり沿腰郡新涯奉行とした。重政は高須村かる現在の本庄神社の地に居を移る、建宝4年(1676)7/すで
列没した、辞世の句「身を捨てて盧に帰るわか心

芸備塩田の開発年代

尋ぬる宿も今日ばかりなり」

						ded humanous evenus	
藩別	浜 名	軒数	開発年代	藩別	浜 名	軒数	開発年代
	松永	5 1	寬 文 2		生口小浜	3 0	寛文10~天和3
455	柳津安永浜	5	安永5~天明3		"新浜	7	元禄3~元禄9
福	" 慶応浜	9	明 治 2		佐木島扇浜	7	天 保 5
Ш	″ 相生浜	7	明 治 2	-	大崎古浜(1)	1	延 宝 4
藩	山波	1	元 禄 11	広	" 古浜(2)	9	元禄13~正德3
rest	藤江・金見	7	明和 3 ~安永3		″ 新浜(1)	3	文 政 7
	浦 崎	2	正 徳 5	-	"新浜(2)	3	天 保 10
	富浜古浜	11	延 宝 5		"新浜(3)	1	幕末
	″ 新浜	14	元 禄 4	島	忠海(1)	1	不 群
広	栗原沖	4	// 元	ρΩŋ	″ (2)	4	正德年間
,	肥英	8	" 2		竹原古浜	88	慶安3~明曆2
77.	小肥英	2	享 保 15		″ 新浜	7	天 保 4
4	天女浜	11	元 禄 5		仁 方	1 2	元禄 4 ~元禄9
	津部田浜	2	" 10	藩	風早	6	天 保 10
	吉和古浜	8	<i>"</i> 9	1500	川尻	1	文"化 5
藩	"新浜	9	" 16		小松原	-1	幕 末
	三原古浜	15	" 13		三戸城	3	幕末
Personal Company of the second	″ 新浜	8	天保年間		小 方	6(?)	文 政 元
-	1		1	Li			

(松水町誌138~139ページ)

松永塩田の反別および牛産高の変遷

4	E	代			Ē	Į			H]				Stipenoine	-	diam'es (%)	生	nem-ze	mm-u	NAME ADDRESS	dr.jaco	産		uwmor-		-	高	TOTAL DESIGNATION OF THE PARTY	
元禄	1	1年検地		3	9 🛱] (反	91	改 1	23	b				1	1	5 5	5	0	傲	(10	7	年	平;	与	生產	至	寫)
H	1	3年5月	僉地	5	6胃	J 4	反	2	改 3	歩																			
明治	8	年潤量		6	5 A	J S	反	5	敦 2	53	外	自場	2	可 8	反	21	改 6	歩											
"	2	2年調		5	5 1	J	反	61	放 2	03	外	荒地	1	4 B)	3	反	6畝	1	4	步((到	胎1	7年	= >	大水	酒	復	IE	未了
#	4	0年調		6	9 🛭	J	反															1	4	3	4	1	5 (0	0斤
大正	1	0年調		7	9 🛮	T 5	畝	(設制	墙田	日新	たに	Mi	石の	亡	ab i	曾反)				1	1	8	8	4	4	3	0斤
昭和	1	0年間		1	2 :	3 2	0	4	5 ^	クタ	JV	(松	永	專売	所	當	內總	轄	0	1=2	D.	增反)		1	4	3 !	5	0 噶
#	2	2年調		1	2 1	3 3	3 1	5	9						, bu	o. 1-25	14.					n/m			-		-		0 噂
"	2	5年調		1	2 8	3 (2	4	8								塩塩塩	1	2				1	22					0円 5円

第4表 福山藩における元治元年~明治元年までの年平均運上金・正税・雑税額

項目運上額	金	.*
量表並腐類運上	1604両	
棉類運上	1551	e .
多葉粉選上	9 2	
浜 運 上	7 6 8	A STATE OF THE STA
銘酒御礼銀	6 5	CONTRACTOR
āt	4 0 5 2	
正 税	23488	49017石
雜 税	2799	6 6 4 7
āt	26287	5 5 6 6 4

註 藤井正夫氏「備後表の歴史」(広島県今と昔の産業)所収

(3)松永の興降と文化

・松水の発展・

寛文年間塩の町として誕生した松水は文化年間(1804~1817)には宿場の年間に高する富裕な町となった。これは製塩の他にも寛文年間に設けるれた備後表で紹の運上所近郷の畳表や線を集めて税・運上銀を課す役所、編は干拓地や荒地など稲作に適さない土地に生産された。木綿橋」の地名にもみられるように綿の取引は盛んに行なれた。木綿橋」の地名にもみられるように綿の取引は盛んに行なれた。木綿橋」のたまは後表」は文献にも使れている。福島時代には表りた面まで出回。ている。安土城にも使れている。福島時代には表りか米4升8合として3万/000枚分の1488石分が備後/0万石の中に始り献上表は幕府買上げになり、元和8年には9000畳の買い上で設めずまは幕府買上げになり、元和8年には9000畳の買い上では始り正保3年(1646)まで24年 直続いている。海運の便のよい松永は集荷した品々を上方へ売り出す港町としても栄え南人が集り富を積低

第3表 松永塩田の炊塩場(明治23年ごろ)

Δ小代島	山屋浜・住屋・和田屋
△稲荷島	三浦屋、仲浜、車屋・稲荷浜
△徳 島	田中屋・大石屋・肥浜屋・番田屋・塩屋・天満屋・本屋・佐藤屋・大木屋・高須屋
	・仲屋・柳屋
△今津屋	久井屋・上ノ浜・下ノ浜・大西屋
△本郷島	手崎・藤本屋・元浜・屋敷浜
△長和島	小判屋・篭屋・東浜・神村屋・本郷屋・延谷屋
△神 島	上世良屋・桝屋・上白市屋・下白市屋(一名藤屋)・尾道屋・亀川屋・明神・下世
	良屋

昭和16年合同煎熬工場の完成に依り、この炊塩場は廃止された。

・松水の文化と人

富ちたくわえた商人産は文化文政期(1804~1830)の都市の町人文化を まねて、 證典、能、囲碁、茶花、詩文、俳句等の高尚な文化がおこ。 た、 松永 に文化的文献の最も古いものとして現存しているのは高橋家の頼春 風の煙火を見る詩と、井出良朴を訪う詩であるか他にも当時庄屋や表商であった入江家、吉井、大木屋、高須屋などにもそれぞれ山陽 などの逸品があったが散逸して伝わっていない。

高橋家はもと大塩業者であり庄屋であったが、禎育(養浩)、面山、 碧山、規治と4代続いて文化人を出している。 禎春は庄屋をやめる と京で医を修め以後代や医薬を続けた。 医のかたわら和歌を学び、 **詩.笛.等の 技にも長じた、春風が同家に遊んだ時次の詩を残している**

松永煙火え詩 賴 春風 粉社恰逢秋霍時 昨余留我命杯息

百条煙火夜将羊 満路醉人席去運

辛己八月二十七日晚発神迈駅到松永宿 高橋禎育君宅

石井四郎三郎は高稿禎春の後をうけ庄屋になり、百島塩田を築り たり、天保山を作3うとしたり塩業南発に功績が大きかった。 天保山は彼が塩田を作るうとして果しえなかったものであり、文化 元年(1804)から製塩に石炭が使われると、石炭がらの捨て場となり、 近年では村木置き場となった。 郷民は彼の徳をたたえ本庄神社内 に徳本社をつくった。同家が大阪へ転任したので祠堂は軍人遺族会 に寄贈し、本庄神社境内に英霊殿として祀られている。

石井竹荘は四郎三郎の孫で謡曲碁、茶花の師として近郷の子弟の教 |育にあたり、私塾浚明館を創立して漢学の普及にっとめた

機織屋庄助は宝暦元年(1751)26才で組頭となってから塩田開発を志 ざし、幾多の困難を重ね引すの時工事に着手し安永6年(1777) 潮留 工事を完了し天明3年(1783)には塩田(安永浜) か完成した。

山路氏は代々藤江村の豪族であった。松永新涯が築かれると藩主 は松永湾の漁業権を山路氏に許した。家号を岡本といい、七代目機谷の時繁栄は頂点に達した。所有する田畑は13ヵ町村、塩田15ヵ所 、使用人は1000人を超えた。松永湾の水は枯れても山路の財は失せ す」とも、福山の殿様10万石、岡本の財産10万石」とも言われた。

代々郷土の社会事業や殖産事業も盛んに行い、又頼三陽、三樹三 郎、菅茶山一(松水湾を遺芳湾と名付けた) ろ多数の文人、志士ると

交流があったが明治中期没落した.

(4) 松永の史蹟・承天寺と皇政

承天寺由諸書によればもと神島村(現血神島町)にあった本庄家の菩提寺(慶)であったのを、松永が完成した時重政が亡久重紹の冥福を約る為今の地に紛し、父の戒名よりこ字とり「承天寺」 と名づけ山林と田畑を寄進した。松永に住む者は宗旨のいかんを問かずこの寺の壇家とした。 また土産神として塩崎明神を勧進し、もとは柳津の丘にあった潮崎神社」を建てた。 承天寺の丘の上に自分の盈敷を建て永住の地とし(寛文7年1667)たものの本庄氏は後に約絶となった。

本庄神社」は後年浜人達が重政の徳をした。て昼敷跡に建立した もの、(宝暦9年1759) その頃承天寺や本庄神社に登る石段はなか。 たのである。安永年間(1772-1780)に安永浜が築かれると本庄神社参道 に石鳥居が献納された。大正14年には重政の250年祭を行い彼の功

に対して追贈された徒5位の報告をしている.

承天寺には重政自作の木優、大石頼母の書、重政が岡山池田家に奉公する時差出した「先祖書ーによれば尾張の生れで父は水野騰成が川屋3万石を相続した時に昔諸奉行となった。川屋、郡山、福山と続いた家臣である-」 など寺の由諸を伝える宝物や資料がある.

重政は近宝4年(1676)7/オで死没したが続いて彼の妻の兄である城代家老上田玄蕃が死去すると、重政の嫡子重高は藩を追われた。これは、松永の嗣祖として本庄氏の恩顧が残ることは藩主の殿光、体制の維持から排りすべきことであり、重政死後において松永から本庄氏の影響力をぬぐい去ることが肝要だった。(平井隆夫氏の説)本庄氏の影響力をぬぐい去ることが肝要だった。(平井隆夫氏の説)を高は妻の実家に身を寄せ、水野家斷絶後、子誓宗海が元禄17年住職となり、その後は代々の住職を弟子が継ぐことになった。(現住転は15代目) 重尚が享保11年(1726)、誓宗海和尚も正徳6年(1716)に死去し本庄氏は斷絶した。

• 今津本陸

当地に駅制が敷かれたのは慶長7年(1602). 宿場町となったのは松永かできた寛文年間(1661~1672) でこの時庄屋、宿老を定め、本陣は庄屋河本家が世襲した。安永年間(1772-1780)蓮花寺を今の地に移し脇本陣とした。参勤交代の諸大名や頼山陽、叔久の頼杏坪、管茶山ら为くの文化人も遊んだ、宿、商家、人夫・馬子の宿なび300 軒以上の町並ができたか明治4年の農民・揆でほとんで焼け、現在河本家66代目が屋敷を守っている。

・藁江城と赤紫城

古文書によれば藁江九郎左衛門応永5年(1398) 当城(赤紫城)を山田渡辺氏(能野思木城主)へ渡して藁江城へ移るて云 渡辺退城後当城へ帰り入る」とあり応永5年かる12年自藁江氏の居城であった。(宝きょF) 右かある) 社領(京都石清水八幡宮の宝塔院領) 荘園の中へ入ってきた地顕武士の中に藁江氏かいたるしい。

• 実戲坊

本堂前に2基の宝む印塔(敏)、右側の塔に水和角 北朝の北朝年号)4年(1378)の銘がある。本堂に安置 してある密教法具の五鈷杵、五鈷鈴金剛盤、木像 地蔵菩薩半跏像は 宝町中期の作、(市重文)

西備名区には光林山実蔵坊、真言宗西国寺末寺」とある。

• 岡本池

水野勝成が福山へ移封して干拓と共に行った土木工事がため池の造成である。 備後の 3 大池といわれる瀬戸池は寛永 14年(1639)、春日池が寛永 20年、服部大池が寛永 22年に完成している。

良質の御影石の岡本池碑」には文政元年(1818)管本山の書による文がみられ池の由来が刻まれているそれによると、干害に苦しむ農民の為に山路氏(Mページ参照)が1818年に私財を投じてつく。た、とある、彼の業績は藩主阿部公の耳に入り賞をもらったり、碑を立ててもら。たりした。

・菜江峠の接待碑

昭和47年4年間要し農免道路ができたが、江戸期より福山城下へ通う最短距離として沼隈半島西部の人々に利用された峠である。 文化14年(1817)か5山路氏により旧6/7月に茶の接待があった.

明治中期にとだえた後、金江村の前田両蔵氏が復活させた、昭和25~26年頃迄地元青年田の労力奉仕が続いた、現道路は当時より5人トル程下。ている。

製塩の厂史と松永製塩

・古代の製塩

• 楊浜式塩田

古代の製塩では海中における藻刈り作業を伴い場所的にも季節的にも制約され、また小型土 器使用の為大量生産できなか。た

奈良時代から海水を海から桶であげ塩田にまいて太陽熱や風力で水分を蒸発させ塩を砂に付着させてとる揚浜式塩田が開発された。

奈良時代深津市では布、綿と共に塩の交易が記録され、また備後国に塩庄園が存在した。

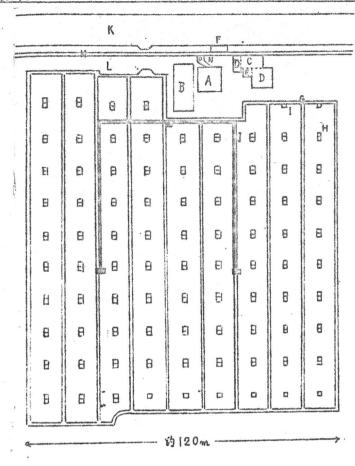
全江町の藁江庄では中世塩田による製塩業が行なわれ、文安3年(1446)、藁江庄社家分塩浜帳え事」によると年具として520桶8合、俵にして57俵7桶8合を出している。 藻に代って砂塩浜)を利用し、小型土器に代って石釜、鉄釜が生れ、燃料を採取する山塩山)が出現すると大量製塩が可能となり、社領塩田も出現した。

• 入浜式塩田

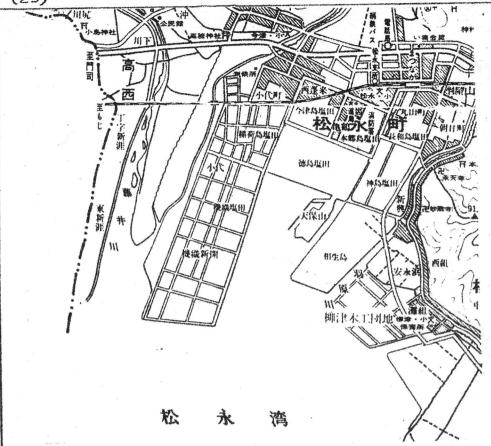
揚浜式では海水の運送に多大な労力を要すし 干満の間をぬって集砂、撒砂の作業をするので 能率が悪い、 そこで提防、樋内、アンコ」と呼 ぶ貯水池等の設備をもって、入浜式塩田が生れた。

まず満潮時に海水を提防の樋门から浜溝に導入 し、この海水が地盤表面に浸出したものを日光と 風により蒸発させ盤上に撤いた細砂に結晶塩を付 着させる。これを1日2~3回、2~3日繰返す と塩が固着して歩くと足が痛い程になる。その細 砂を沼井と呼ぶ壺に集め海水を注加し、砂の塩分 を溶かし濃い海水(鹹水)を沼井脇の下穴に滴下土せ 台っぼに貯え漸次釜屋で(松永では石釜) 煮詰めて 結晶塩を得た、地盤には沼井の隅に積んだ砂を撤 いて新に塩をつける。 地盤は満于潮の中間位に水 平にならし、細長い満を幾つも掘り短冊形の地盤 が数枚並んで塩田でなる。大型アンコに貯水して 朝から数回塩をつけ午後2~3時頃最もよく固着す る時、集砂」した。砂は松永沖や不足すると伊予来 島方面からも取り寄せた。瀬戸内の花崗岩質の銀 砂が最も適した.

・松永の製塩業



1-17 塩田平面図



以上(15)~(26)~一 じまで本庄重政と松永塩田を主 に記述しました。参考文献は次の通り。

- ・まつなが一中国新闻社
- 福山散第一村上正名
- · 松水町誌
- ・松永市の展望 中国観光地誌社 ・文化財子くやま第19号 平井隆夫氏 「水野溝と松永の成立」より
 - ・福山の厂史山村上正名
- 塩の民族資料緊急調查報告書 松永の塩業史文化史-石井売吉
 - •福山市碑 三上勝康

上記の文献より文、表、図、地図を引用させていたださました。

▶編集後記◀

松永の探訪は当会として初めてですがPart2 もいづれ行なわれるはずです。本資料の書き足 りない点なごその節にはようしくお願いします。 (1985・梅雨の日に 東田、田口、七森、種本)



松永村 今津村 柳津村 徳川時代における戸数と人口 ____ 一、二八五 七五二 二八七 二八七 、三大 九00 九九〇 八五七 二二二二 三六三 二大大 1.1011 一、五元三 八二九七

1 -38

-1	相	1000	141,		-HART	30	
	200	旭	PE	W	TEL	OL	5384
		-					Day O In

	transfer and the	- Maritar Maria			Service on the					- 1121	4 67	<u> 538</u>	4	
名		帯	面	穬	現		況	所有者	鉄道	引込織	交通利用	道路	港湾との	関係
東	新	獲	203	<i>n</i> € 000	H		畑	民 有	山陽線から	製松永駅 1.9杆	国道2	号線から	松永港	利用
中	新	涯	161	000		1		-	4	1.5	"	0.4	"	
機	繳新	涯	503	000	田畑	,廃	塩田沼	"	"	1.6	,	0.5	"	
稲	荷	島	129	000	廃	塩	田	4	19	1.8	1	0.5	"	
今	滩	島	96	000		"		-	1	0.6	-	0.3	"	
本	徽	島	20	000		4		#	"	0.4	11	0.5	*	
徳		島	176	000	on the second	"		"	1	0.6	W	0.6	1.	
神		8	143	000		1		"	"	1.9	-	0.7	-	
相	生	廳	196	000		1		4	"	2.2	"	1.3	. ,	1
安	永	浜	88	000		11		"	4	2.4	"	1.5	1. 1	
柳	市干	拓	212	000	干	拓	地	国有	"	2.7	"	1.8	"	
慶	応	浜	143	000	廃	塩	田	民有	"	3.2	1	2.2	"	
鄉	降新	浜	200	000		田		"	4	3.3		2.6	"	
金江	C藤江	工浜	96	000	魔.	塩	H	"	*	4.1	"	3.1	. "	
七	看	浜	24	000		19		7	"	4.6	"	3.7.	1	
藤	江. 地	先	2,244	000	海		面	公有	"	3.4	*	2.2	*	

松水 用了主要年表(参考:松水市の展望-中国観光

年(西曆)

其

白鳳年間(672)

天平勝宝(729-756)

承平年間(931-937)

建保》(1213-1218)|土肥实平 // /

塵長5年(1600)

元和5年(1619)

元和6年(1626)

寬永元年(14%) 明曆元年(1655)

* 2年(1656)

万治元年(1658)

實文2年(1662)

7 3年(1663)

4 8 年(1668)

元禄以前(1688前)

少川年

> 13年(1700)

* 以後

王永了年(ITIO)

安永3年(1773)

廖底2年(1866)

明治2年(1869)

4 4年(1871)

" 9年(1876)

* 22年(1889)

7 24年(1891)

4 25年(1892)

* 26年(1893)

* 30年(1897)

7 334 (1900)

大正 15年 (1926)

日召和 16年 (PAI)

" 28年 (1953)

7 29年 (1954)

1 30年 (1955)

+ 414 (1966)

莉羅王子今津に漂着す

実廠坊建立

新庄太郎実秀本鄉神村八幡宮建立

応永年間(1394-1427)赤紫城に藁江九郡左衛円居城す

福島正則が安芸・備後4月8千石として八国 水野勝成が備後7郡と備中の1部に入封。10万石

藁江村より全江村分れる

水野勝後かる代藩主となる。

水野勝貞が3

柳津新田完成 高須大新田完成

松水新田完成

水野勝種が4代藩主となる.

》 年間(Wiv 1672) 金見新田、藁江新田、池浦新涯完成

承天寺、潮崎神社、楯花神社建立

藤江新海完成

水野勝岑かち代藩主となるが死去し水野家領没収 岡山藩による検地か行なわれた。15万30石。

旧松永

市章

出明山形より松平忠雅が移封、5万30石の滅地、

沖/浜, 劍脇新涯完众

宇都官より阿部正邦が移封

安永浜完成

慶応浜、小代新闻、中新阁、大元新田、丁卯新涯

西新田完成

相生浜。

庄星を廃し戸長副後を置き松水に事る所を置く

岡山県より広島県に編入

町村制施行

山陽飲酒雨浦

松永郵便局設置

"整察署"

習體都役所か松永に設置。機織新田完成

松水町制施行。塩業調查所置く

郡役府廃止. 今津町制施行

松永合同製塩完成

今津町で合併し松水町と新す

東村,本郷,神村、柳津、金江、藤江と合併し松浦

高西町合併

福山市と合併。

